

平成30年度

山梨の特別支援教育

山梨県教育委員会

目 次

I	概 況	2
1	特別支援教育の推進	
2	「やまなし特別支援教育推進プラン」	
3	平成 30 年度特別支援教育関係事業概要	
4	特別支援学校の現状	
5	特別支援学級の現状	
6	「通級による指導」の現状	
7	交流及び共同学習の推進	
8	就学支援	
9	教職員の専門性の向上	
II	特別支援学校	7
1	指導重点	
2	特別支援学校在籍者数及び教職員数	
3	特別支援学校の紹介	
III	特別支援学級及び通級による指導（通級指導教室）	22
1	設置状況	
2	平成 30 年度 小学校・中学校特別支援学級設置校及び設置学級数 ※特別支援学校及び特別支援学級・通級指導教室設置校分布図	
IV	交流及び共同学習	28
1	学校間における交流及び共同学習（学校間交流）	
2	地域における交流活動（地域交流）	
3	居住地の学校等における交流及び共同学習（居住地校交流）	
V	就 学 支 援	30
1	就学相談	
2	就学手続の流れ	
3	地区教育支援（就学指導）委員会構成	
4	平成 29 年度就学支援児童生徒数について	
VI	特別支援教育関係研修・講座、指導資料	33
1	教員研修に関する制度	
2	特別支援学校教員免許取得に関する制度	
3	教員研修	
4	指導資料一覧	
VII	特別支援教育関係機関等	35
1	総合教育センター	
2	相談機関等	
3	特別支援教育・社会福祉関係団体	
4	特別支援教育関係機関系統図	
VIII	特別支援教育関係条例・規則等	40
1	山梨県附属機関の設置に関する条例	
2	山梨県教育支援委員会規則	
3	山梨県特別支援学校学級編制要綱	
付	録	43
	・学校教育法（抜粋） ・学校教育法施行令（抜粋） ・学校教育法施行規則（抜粋）	
	・学校教育法施行令の一部改正について（通知）平成 25 年 9 月 1 日付け文科初第 655 号	
	・障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知） 平成 25 年 10 月 4 日付 文科初第 756 号	

「山梨の特別支援教育」は高校改革・特別支援教育課特別支援教育ホームページに掲載しています。
山梨県教育庁高校改革・特別支援教育課特別支援教育HPアドレス
<http://www.pref.yamanashi.jp/koukai-tokushi/tokubetsushien/tokubetsushienkyouiku.html>

I 概 況

1 特別支援教育の推進

本県では、平成 19 年度の特別支援教育の本格実施から、県内全ての幼稚園、小・中学校及び高等学校への校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名を行うなど校内支援体制の整備を図るとともに「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成の指導、特別支援学校のセンター的機能の充実に取り組んできた。

平成 22 年度から公立小・中学校、高等学校において、校内委員会の設置及び特別支援教育コーディネーターの指名は 100%となり、公立小・中学校における「個別の教育支援計画」の作成率は小学校で 85.4%、中学校で 85.5%（平成 28 年 9 月 1 日現在）と校内支援体制は整いつつある。

平成 20 年度から 24 年度まで、文部科学省の委嘱（委託）事業により、「山梨県特別支援教育総合推進事業」（特別支援教育の体制整備事業）を実施し、運営会議、地区及び専門部特別支援連携協議会の設置、特別支援教育専門家チーム、巡回相談員の配置、関係職員の資質向上のための研修会の開催等により特別支援教育を総合的に推進してきた。また、平成 23 年 7 月に「やまなし特別支援教育推進プラン」を策定し、本プランの具現化に向け、各施策に取り組んでいる。

平成 25 年度から平成 27 年度まで、文部科学省の委託事業により「山梨県特別支援教育体制強化事業」を実施し、「山梨県特別支援教育総合推進事業」において構築した体制を基に、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、心理士の外部専門家を活用した特別支援学校等の教員の専門性の向上、特別支援学校のセンター的機能の強化、総合教育センターにおける相談支援体制の強化等に取り組んできた。

平成 28 年度からは、文部科学省の補助事業により「山梨県インクルーシブ教育推進事業」を実施し、特別支援学校 9 校に配置した P T 等専門家（H28 から視能訓練士を新たに配置）を活用し、特別支援学校における校内の指導体制、教員の専門性及びセンター的機能の充実に図るとともに、幼稚園等、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に取り組んでいる。また、平成 26 年度から開始した「高校生こころのサポート事業」を「高校生こころのサポートルーム活用事業」とし、富士見支援学校を中心に推進している。

また、平成 17 年度に作成された「個別の教育支援計画」は、インクルーシブ教育システム構築の推進に合わせた合理的配慮を明記する等、平成 28 年度から新たな様式に改訂した。

2 「やまなし特別支援教育推進プラン」

特別支援教育の実施に伴い、成果を上げる一方で、特別支援学校在籍者数の増加による教室不足、軽度知的障害生徒の高等部教育の在り方などの課題が生じてきた。

このような中、平成 21 年度に庁内検討委員会を開催し、本県の特別支援教育の抱える諸課題について整理するとともに、平成 22 年度に山梨県特別支援教育振興審議会を開催し、平成 23 年 7 月に同審議会の答申を踏まえ今後 10 年間を見通した「やまなし特別支援教育推進プラン」を策定した。

(1) 基本理念

障害のある子どもたちの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導や支援を行うという特別支援教育の理念に基づく。

(2) 目的

特別支援学校における特別支援教育の充実及び教育環境の整備を図るとともに、幼稚園、小・中学校、高等学校における障害の程度に応じたきめ細やかな特別支援教育を推進し、障害のある子どもたちが自己実現を図ることを目的とする。

(3) プランの期間

平成 23 年度～平成 32 年度（10 年間）

(4) プランの概要

- 特別支援学校における支援体制の整備
 - ・教育の充実・センター的機能の充実・施設整備・知的障害特別支援学校の大規模化への対応
- 就学前、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実
- 交流及び共同学習の推進
- 教員の専門性の向上と配置
- 特別支援教育の総合的な推進
- 他のプランとの連携

(5) 平成 30 年度重点施策

- 特別支援学校の施設整備
 - ・やまびこ支援学校の移転整備
- 特別支援学校における教育の充実

- ・個別の教育支援計画（平成 28 年度改訂）の作成・活用の推進
 - ・インクルーシブ教育推進事業に係る P T 等専門家の配置
 - ・寄宿舎の活用（寄宿舎運営協議会）
 - ・医療的ケアの充実（教員による喀痰吸引等の特定行為の実施）
- 就学前、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実
- ・市町村における支援体制の充実に向けての取組（市町村障害児就学事務担当者会議の充実等）
 - ・中学校における「ことばと発達のサポートルーム」の充実
 - ・幼、小・中学校、高等学校における特別支援教育の推進
 - ・高校生こころのサポートルーム活用事業
 - ・各種研修会の実施、独）国立特別支援教育総合研究所等への派遣

3 平成 30 年度特別支援教育関係事業概要

（1）特別支援学校児童生徒就学奨励費

- ・特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の保護者に対し、教科用図書購入費等、特別支援教育就学奨励費を支給することにより経済的負担の軽減を図る。

（2）特別支援教育推進事業

- ①山梨県教育支援委員会の開催
- ②特別支援教育担当職員研修会の開催・指導資料の作成
- ③インクルーシブ教育推進事業
 - ・インクルーシブ教育システム推進会議の開催
合理的配慮専門部会、医療的ケア運営部会を設置
 - ・特別支援学校の専門性の充実に関する取組
 - ・医療的ケア支援に関する取組
 - ・就学支援体制の充実に関する取組
 - ・地区及び専門部特別支援連携協議会の開催
 - ・幼稚園、小・中学校、高等学校を支援する取組
 - ・高校生こころのサポートルーム活用事業
- ④「合理的配慮」実践研究事業
- ⑤入院児童生徒への教育体制強化事業（H29・H30）
 - ・中央市立玉穂南小学校、玉穂中学校下河東分校（山梨大学附属病院内）を対象。入院している児童生徒の教育の充実を図るため、関係機関の連携支援体制の構築

（3）交流及び共同学習推進事業

- ①特別支援学校における交流及び共同学習の実施と推進協議会の開催
- ②山梨県交流及び共同学習研究協議会の開催

4 特別支援学校の現状

（1）特別支援学校の設置状況等

本県では、平成 19 年度改正学校教育法施行とともに、「養護学校」を「支援学校」と改名（盲学校、ろう学校は名称を継続）し、特別支援教育をスタートした。

特別支援学校は、全県一学区とする盲学校、ろう学校が各 1 校、肢体不自由特別支援学校 2 校、知的障害特別支援学校 3 校（県立高等支援学校桃花台学園が平成 27 年 4 月に開校）、知肢併置特別支援学校 3 校（内分校 1 校）、病弱特別支援学校 2 校（内分校 1 校）の 12 校（内分校 2 校）の県立特別支援学校と山梨大学教育学部附属特別支援学校（知的障害）の計 13 校が設置され、平成 30 年 5 月 1 日現在、県立特別支援学校に 991 名、附属特別支援学校に 51 名の幼児・児童・生徒が在籍している。

平成 24 年 4 月には、知的障害特別支援学校の在籍者数の増加による教室の不足や大規模化の解消を図るため、旧高等学校跡地を活用し、かえで支援学校（知的障害）の分教室を設置、高等部における軽度知的障害の生徒を対象に「職業実践コース」により、職業的自立を目指した教育実践の取組を始めた。平成 27 年 4 月には、かえで支援学校分教室の取組を基に、山梨県内では初となる県立高等支援学校桃花台学園を開校した。桃花台学園では、産業技術科に「農業生産コース」、「食品加工コース」、「環境メンテナンスコース」の 3 つのコースを設置し、職業自立に必要な能力と実践的な態度の育成を目指した教育を行っている。

また、盲学校、ろう学校、甲府支援学校（肢体不自由）、わかば支援学校本校（知的障害）、やまびこ支援学校（知肢併置）、桃花台学園（知的障害）に寄宿舎を設置しており、平成 30 年度は全体で 88 名（宿泊をしている児童生徒数）の児童生徒が利用している。

富士見支援学校本校（病弱）は、（独）県立中央病院、同校旭分校は、（独）県立北病院に併設され、病院で加療中の児童生徒の教育を保障している。

あけぼの支援学校（肢体不自由）は、県立あけぼの医療福祉センター（肢体不自由児・重症心身障害児施設）に、わかば支援学校本校（知的障害）は県立育精福祉センター（知的障害児施設）に隣接し、医療、福祉、教育が連携しながら特別支援教育を推進している。

また、甲府支援学校（肢体不自由）は通学区内に、（独）国立甲府病院（指定療育機関）があり、入所児童生徒への訪問教育を実施している。

(2) 訪問教育

重度の障害のため通学して教育を受けることが困難な児童生徒に、可能な限り教育を受ける機会を提供するため、教員が家庭や病院を訪問し指導を行う訪問教育については、肢体不自由特別支援学校である甲府支援学校及びあけぼの支援学校、知肢併置特別支援学校であるやまびこ支援学校及びふじざくら支援学校の4校が実施できることとなっている。

平成30年度現在、甲府支援学校、あけぼの支援学校の2校において、18名の児童生徒が訪問教育を受けており、8名の教員が指導にあっている。

訪問教育対象児童生徒の障害は、重度・重複化、多様化しており、医療的ケアの課題も踏まえ、スクーリングの実施、学校行事への参加についてガイドラインを示し、慎重な対応を行っている。さらに、児童生徒や保護者のニーズに対応できる幅広い学習・指導形態、指導方法の研究を進めていく必要がある。

(3) センターの機能

学校教育法第74条により、特別支援学校は、いわゆる特別支援学校のセンター的機能として、地域の幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努めるものとされている。

各特別支援学校では、校務分掌に地域支援部などを位置付け、特別支援教育コーディネーター（以下「コーディネーター」という。）を指名し、①教育相談、②地域の幼稚園、保育所、認定こども園、小・中学校及び高等学校等への訪問支援、③特別支援教育に係る研修支援、④総合教育センター相談支援部との連携、⑤関係機関との連携及び連絡調整（地区及び専門部特別支援連携協議会の企画・運営を含む）を行っている。

各県立特別支援学校のセンター的機能の発揮に係る指定地域

市町村等	依頼内容に係る対象障害種等						言語障害を対象とする通級指導教室に対する支援	県立中央病院及び北病院加療者への支援(前籍校転出後支援を含む)	桃花台学園入学希望者	「高校生こころのサポート事業」に係る高校生及び在籍高校への支援
	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱				
甲府市 ○ 山梨市 ○ 笛吹市 ○ 甲州市 ○ 甲斐市 ○ 中央市 ○ 昭和町 ○ 北杜市 ○ 韮崎市 ○ 南アルプス市 ○ 市川三郷町 ○ 富士川町 ○ 早川町 ○ 身延町 ○ 南部町 ○ 都留市 ○ 大月市 ○ 上野原市 ○ 小菅村 ○ 丹波山村 ○ 道志村 ○ 富士吉田市 ○ 西桂町 ○ 忍野村 ○ 山中湖村 ○ 鳴沢村 ○ 富士河口湖町 ○ 河口湖南組合 ○	盲学校	ろう学校	かえで支援学校	甲府支援学校	富士見支援学校本校	かえで支援学校	富士見支援学校 本校・旭分校	富士見支援学校 本校・旭分校	桃花台学園	富士見支援学校 本校
わかば支援学校			わかば支援学校							
わかば支援学校 ふじかわ分校			あけぼの支援学校	富士見支援学校 旭分校	わかば支援学校					
わかば支援学校					わかば支援学校					
やまびこ支援学校					かえで支援学校					
やまびこ支援学校										
ふじざくら支援学校					かえで支援学校					
ふじざくら支援学校										
ふじざくら支援学校										
ふじざくら支援学校										

○・・・言語障害を対象とする通級指導教室設置市町
※ 公立私立を含め幼稚園、保育所、小学校、中学校及び高等学校については、当該校等所在地の市町村に指定した特別支援学校が支援する。

(4) 医療的ケア

甲府、あけぼの、わかば、やまびこ、ふじざくらの5校では、平成24年度に策定した「山梨県医療的ケア実施要綱」及び「医療的ケア実施要綱細則」に基づき、「実施要領」を作成し、安全管理等に十分配慮した実施マニュアルに従い、医療的ケアを実施している。

平成30年度は、甲府支援学校に3名、あけぼの支援学校に5名、わかば支援学校に1名、やまびこ支援学校に1名、ふじざくら支援学校に2名の看護師を配置、47名の児童生徒に対して、たんの吸引、経管栄養、胃ろう・腸ろう、導尿等の医療的ケアを実施している。また、平成25年度より教員による特定行為に係る基

本研修・実地研修を実施し、平成26年度より教員が特定の児童生徒に喀痰吸引等の行為を開始している。

(5) 乳幼児早期教育相談

盲学校は視覚障害に関する教育相談・支援センターとして、ろう学校は聴覚障害に関する教育相談・支援センターとして、乳幼児の早期教育相談から成人まで、それぞれの障害に関する早期教育や相談支援を行っている。

5 特別支援学級の現状

平成30年5月1日現在、特別支援学級数は小学校に350学級、中学校に157学級、計507学級設置され、1410名の児童生徒が在籍している。

障害種別では、知的障害特別支援学級が205学級（小学校137中学校68）、自閉症・情緒障害特別支援学級が220学級（小学校150中学校70）、病弱・身体虚弱特別支援学級が24学級（小学校18中学校6）、肢体不自由特別支援学級が30学級（小学校23中学校7）、難聴特別支援学級が21学級（小学校17中学校4）、弱視特別支援学級が7学級（小学校5中学校2）となっている。

総学級数は前年度から32学級増加しており、主に自閉症・情緒障害特別支援学級が増加傾向にある。

病弱・身体虚弱、肢体不自由、難聴、弱視特別支援学級は対象児童生徒が少なく1～2人学級となっており、集団による学び合いの場を確保するなど、児童生徒の障害の状態に応じた、適切な学級運営や教育課程の編成の在り方が課題となっている。

病弱・身体虚弱特別支援学級の内5学級（小学校分校3校、中学校分校2校）は病院に設置されている院内分校となっており、入院加療中の児童生徒の学習保障を行っている。

6 「通級による指導」の現状

通常の学級に在籍している障害のある児童生徒を対象とした「通級による指導」については、言語障害通級指導教室（ことばの教室）を2教室、発達障害・情緒障害通級指導教室を4教室、言語障害・発達障害・情緒障害通級指導教室15教室、計21教室を市町村教育委員会と協議し、全県的なバランスを考慮して設置している。平成27年4月には中央市立玉穂中学校に、平成28年4月には甲府市立新紺屋小学校に、平成29年4月には甲斐市立竜王中学校に言語障害・発達障害・情緒障害通級指導教室が新設された。平成29年4月には、甲州市立塩山中学校に発達障害・情緒障害通級指導教室が新設された。

難聴児を対象にした「通級による指導」は、県立ろう学校が全県を対象に実施しており、遠隔地の利用者のため、各地区の拠点校にろう学校の教員が出向いた指導も行っている。

言語障害通級指導教室で指導を受ける児童生徒の中には発達障害等のある者が少なくないため、言語障害だけでなく発達障害、情緒障害への指導を行うため、平成18年度から言語障害通級指導教室へ発達障害・情緒障害を指導する教員の配置を開始した。平成30年度は、甲府市立新紺屋小学校・伊勢小学校・新田小学校・善誘館小学校、韮崎市立韮崎小学校、北杜市立長坂小学校、山梨市立日下部小学校、甲州市立塩山南小学校、富士川町立鯉沢小学校、富士吉田市立下吉田第二小学校、都留市立谷村第一小学校、大月市立大月東小学校、上野原市立上野原小学校、中央市立玉穂中学校、甲斐市立竜王中学校に設置されている通級指導教室が言語障害、発達障害、情緒障害を対象とした「通級による指導」を行っている。

平成30年5月1日現在、言語障害546名、自閉症154名、情緒障害56名、LD103名、ADHD99名、その他18名、計976名が通級している。

また、これらの教室では、就学前幼児の言語障害、発達・情緒障害に関する支援も実施しており、平成30年5月1日現在で、106人の幼児を対象に教育相談等を行っている。

7 交流及び共同学習の推進

交流及び共同学習推進事業として、病弱特別支援学校を除く県立特別支援学校10校（分校を含む）を中心に、学校間における交流及び共同学習、地域における交流活動、居住地校における交流及び共同学習を実施している。

実施校では、交流及び共同学習推進協議会を設置し、実施計画、活動内容の協議、評価等を行い事業の推進に努めている。

県教育委員会においては、各校の推進委員及び地域交流関係者による、交流及び共同学習研究協議会を開催し、交流及び共同学習の円滑な推進のため、各実施校の事業成果と課題等について研究協議を行っている。

また、公立小中学校の特別支援学級の学級担任等を対象とした研修会等においても、特別支援学級と通常の学級の連携や交流及び共同学習について、重要性や必要性を確認し推進を図っている。

(1) 学校間交流

平成30年度、交流及び共同学習提携校として、保育所・幼稚園各1か所、小学校13校、中学校14校、高

等学校 18 校を指定している。

(2) 地域交流

平成 30 年度、地域交流提携団体は、特別支援学校の周辺地域の自治会、老人クラブ、福祉施設、文化・芸術団体、農園等 50 団体で、ほうとう会、スポーツ教室、音楽発表会等を計画している。

(3) 居住地校交流

平成 30 年度は、40（6 / 1 現在）名の児童生徒が、居住地校において交流及び共同学習を実施している。

8 就学支援

平成 25 年 8 月学校教育法施行令の一部が改正され、障害のある児童生徒の就学手続きについて、特別支援学校の就学基準（学校教育法施行令第 22 条の 3）に該当する児童生徒等は原則特別支援学校へ就学するという従来の仕組みを改め、市町村の教育委員会は、障害のある児童生徒等の障害の状態、教育上必要な支援の内容、地域における教育の体制の整備の状況その他の事情を勘案して、総合的な観点から就学先を決定する仕組みとされた。

県教育委員会においては、平成 25 年度末に、従来の「山梨県障害児適正就学推進委員会」を廃止し、障害のある幼児、児童及び生徒の就学等に関する決定を行う市町村教育委員会等に対する指導及び助言の効果的な実施を図るため、「山梨県教育支援委員会」を設置した。

市町村教育委員会においては、県内 9 地区（3 地区は市町村単独設置、6 地区は複数の市町村による共同設置）に、就学指導委員会（協議会）が設置されてきた。各就学指導委員会は、名称の変更、役割・開催回数の検討がなされ、徐々に教育支援委員会へと変更されてきており、就学時の判断だけでなく、就学後の一貫した支援についても助言を行う組織へと見直しが進められている。

県教育委員会では、市町村教育委員会による就学前からの継続した就学相談・支援体制を構築するため、特別支援教育市町村担当課長会議や市町村障害児就学指導事務担当者会議の開催、障害児の教育相談及び心理検査の実施方法等についての「特別支援教育専門研修」を開催し、担当職員の専門性向上や、各市町村及び地域の人材育成に努めている。また、市町村教育委員会が行う就学支援の取組を援助するために、県総合教育センター相談支援部や県立特別支援学校における教育相談等を実施している。

9 教職員の専門性の向上

(1) 研修会等

国内大学留学生制度（1 か年）、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所専門研修（2 か月）及び平成 7 年度から山梨大学教育人間科学部（現山梨大学教育学部）大学院（2 か年）への研修制度も設けられ、これらの研修を通じ専門性及び資質の向上を図っている。

また、毎年度、免許法認定講習を開催し、特別支援学校教諭免許状取得のための単位の修得を通じて教員の専門性の向上に努めている。

県教育委員会では、管理職、特別支援教育コーディネーター、担任等を対象にその役割に応じた専門性の向上を図るための研修会等を実施している。特に、特別支援教育の支援体制の充実を図るため、特別支援教育コーディネーターの養成研修については平成 15 年度からモデル地域で開催し、通常の学級を担当する教員を対象とした研修や特別支援教育管理職研修会は平成 17 年度から実施している。さらに、平成 19 年度から高等学校における校内支援体制を整備するため、高等学校の特別支援教育コーディネーター研究協議会を実施し、平成 22 年度からは高等学校の一般教員を対象とした研修を実施している。

また、県総合教育センターにおいて、新特別支援教育担当研修、新特別支援教育コーディネーター研修、特別支援教育専門研修、心理検査法研修、特別支援教育の授業づくり研修等を実施し、教員の指導力の向上を図っている。

(2) 指導資料

研修会の実施とともに、教員向けの啓発リーフレット、特別支援教育の担当者のためのハンドブック等を作成し、特別支援教育に対する理解、担当者の資質の向上に努めてきている。

平成 25 年度にはインクルーシブ教育システムの構築に向け、合理的配慮等の具体的な内容を示した「インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別な支援を必要とする子どものための『授業支援ガイドブック』」、平成 26 年度には、就学前の支援を就学後の小学校（小学部）へ継続するための方法を紹介した「『サポートノート』&『就学支援シート』活用ガイドブック」、平成 27 年度には様式の改訂を受けて「『個別の教育支援計画』の作成と活用リーフレット」、障害者差別解消法の施行による合理的配慮の具体例等を示した「授業支援ガイドブック（改訂版）」、平成 28 年度には「教職員のための『通級による指導』ガイドブック」及び同 DVD を発行し、平成 29 年度には「教職員のための『通級による指導』ガイドブック 2」を発行し各研修会等で活用している。また、平成 30 年 6 月には、「子どものへの支援をつなげる・ひろげる『サポートノート』&『就学支援シート』活用ガイドブック」を改訂し、研修等でも用いている。（P34 を参照）

Ⅱ 特別支援学校

1 指導重点

「やまなし教育大綱」及び「新やまなしの教育振興プラン」の方針に基づき、特別支援教育の充実に向けてより実効性のある取組とするため、喫緊の教育課題を大別し、「新やまなしの教育振興プラン」の下に、6つの「重点項目」をまとめました。

「重点項目」は、平成29年度に残された課題と新たに表れた課題を改善するための「目標」と「主な取組」で構成されています。

教育課題1 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

【重点項目1】 知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の育成
(教育課程の編成と実施)

(目標) ○ ICTを利活用した教育を充実させ、情報活用能力を養う。

(主な取組) ○ 情報モラルの涵養を図りながら、情報を活用して問題を発見・解決する学習活動を実施する。

【重点項目2】 知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の育成
(学習指導の充実)

(目標) ○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究に取り組むとともに、「やまなしスタンダード」に基づいた授業実践を進めることで、授業の質的向上に努め、確かな学力の育成を図る。

(主な取組) ○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「深い学び」の観点から教材や学習課程等について研究し、実践に取り組む。

【重点項目3】 体力の向上と健康教育の推進

(目標) ① 体育・保健体育科において、基礎的な運動能力の育成を図るとともに、体育的行事等の特別活動や休み時間、部活動等、学校教育活動を相互に関連させながら実践し、体力の向上に努める。

② 「食」、「安全」、「心身の健康の保持増進」に関する指導を相互に関連させながら実践し、健康教育の一層の充実を図る。

(主な取組) ① 基礎的な運動能力の育成と体力の向上を図る。
(体育理論で習得した知識を各運動領域で活用する。)

② 保健教育を各教科や特別活動、総合的な学習の時間等と相互に関連させて実践する。

教育課題2 豊かな心と自己実現を図る力の育成

【重点項目4】 いじめを許さない集団づくりと不登校児童生徒が生じない環境づくり

(目標) ○ いじめに関する情報を共有し、いじめを許さない集団づくりに努める。

(主な取組) ① いじめの防止等の対策のための組織を活用し、学校いじめ防止基本方針について、国、県の改定内容を基に点検・改定するとともに、児童生徒や保護者へ周知する。

② いじめを許さない集団づくりに関する研修を校内研修計画に位置付ける。

教育課題3 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実

【重点項目5】 教員の専門性の向上と「個別の教育支援計画」の作成・活用

(目標) ○ 特別支援教育に関する専門性の向上を目指すとともに、特別な教育的支援の必要な子供の「個別の教育支援計画」を作成・活用し、特別支援教育の充実に努める。

(主な取組) ① 障害に関する知識や配慮等について正しい理解と認識を深め、学校として組織的な対応を行うために、各学校において研修等を実施する。

② 「個別の教育支援計画」の作成の意義や活用方法について理解を深め、作成・活用し、切れ目のない支援を行う。

教育課題4 子供たちが安全で安心して生活できる環境づくり

【重点項目6】 様々な状況を想定した学校の安全管理体制の確立

(目標) ○ 地域と連携し危機管理マニュアルの見直し等安全管理体制に万全を期し、子供たちが安心して生活できる環境づくりに努める。

(主な取組) ① ミサイル発射時なども想定に入れた「学校危機管理マニュアル」の見直しを行う。
② 防災に関する教職員の研修を定期的実施する。

2 特別支援学校在籍者数及び教職員数

平成30年5月1日現在

	幼児児童生徒数					教員数											職員数									
	幼稚部	小学部	中学部	高等部	設置 高等 学部	合計	校長	副校長	教頭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師	合計	事務職員	寄宿舎指導員	学校栄養職員	技術員	実習助手	看護師	P T等専門家	学校給食調理従事員等	業務員	合計
盲学校 (視覚障害)	4	5	5	4	普通科 本科保健理療科 専攻科保健理療科 専攻科理療科	18	1		2	27		1			4	35	5	10	1	1	3		1	3	1	25
	1	3	2	2		8									(4)	(4)		(2)						(2)	(1)	(6)
ろう学校 (聴覚障害)	7	12	3	8	普通科	30	1		2	37		1			4	45	3	9	1	1	1		2	3	1	21
	2	7	1	1		11									(4)	(4)		(2)			(1)		(2)	(3)		(8)
甲府 (肢体不自由)		42	26	16	普通科	84	1		2	64		2			11	80	6	14	1		2	4	3	5	1	36
		39(8)	22(3)	16(5)		77(16)									(7)	(7)	(3)	(2)			(4)	(3)	(4)	(1)	(17)	
あけぼの (肢体不自由)		29	25	23	普通科	77	1		2	63		2			5	73	4			1	1	5			1	12
		28(2)	20	19		67(2)									(3)	(3)	(1)				(5)				(1)	(7)
わかば (知的障害)		53	61	115	普通科	229	1		3	105	0	2	0	0	10	121	5	16	1	1	0	2	3	7	3	38
		12	13	25		50									(7)	(7)	(2)	(2)			(2)	(3)	(7)	(2)	(18)	
わかば ふじかわ分校 (知・肢併置)		10	9			19		1		14		1			3	19	2		1	1					1	5
		1	2			3									(3)	(3)	(2)		(1)	(1)					(1)	(5)
やまびこ (知・肢併置)		20	23	39	普通科	82	1		2	52		2			6	63	3	10	1	1		1	2	5	4	27
		7	2	7		16									(5)	(5)		(2)			(1)	(2)	(4)	(3)	(12)	
富士見 (病弱)		4	3			7	1		1	11		1			5	19	2								1	3
						0									(5)	(5)									(1)	(1)
富士見旭分校 (病弱)		1	5			6		1		9		1			2	13									1	1
						0										0										0
ふじざくら (知・肢併置)		29	27	53	普通科	109	1		2	65		2			6	76	3		1	1	1	3	2	6	1	18
		10	7	10		27									(5)	(5)					(3)	(2)	(5)			(10)
かえで (知的障害)		74	50	92	普通科	216	1		3	92		2			8	106	3		1	1			2	7	2	16
		8	3	13		24									(4)	(4)							(2)	(7)	(1)	(10)
桃花台学園 (知的障害)				109	産業技術科	109	1		1	41	0	2	0	0	2	47	5	10	1	1	2	0	5	2	1	27
						0									(2)	(2)	(2)	(2)	(1)				(5)	(2)	(1)	(15)
県立小計	11	279	237	459		986	10	2	20	580	0	19	0	0	66	697	41	69	9	9	10	15	20	38	18	229
山梨大学 附属特別 支援学校 (知的障害)		14	14	23	普通科	51	1	1		25		1		1		29	2							2		4
															(5)	(5)								(1)	(1)	
合計	11	293	251	482		1037	11	3	20	605	0	20	0	1	66	726	43	69	9	9	10	15	20	40	18	233

※幼児児童生徒数の下段は重複障害、下段()内は訪問教育の在籍数。(いずれも内数)

※教員数、職員数ともに下段()内は非常勤の人数。(いずれも内数)

※看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、視能訓練士は全て特別非常勤講師

3 特別支援学校の紹介

(1) 山梨県立盲学校

- ① 所在地
〒400-0064 甲府市下飯田二丁目 10 番 2 号
TEL (055)226-3361
FAX (055)226-3362
URL <http://www.ysvi.kai.ed.jp/>
E-mail ysvi@kai.ed.jp
- ② 設置年月日 昭和 24 年 4 月 1 日
- ③ 交通機関 甲府駅より山交バス①番
長塚行・「長松寺町」バス停下車
- ④ 校地面積 13,721 m²
- ⑤ 校舎・諸施設面積
校舎 5,771 m²
文化交流会館 350 m²
運動場 2,576 m²
- ⑥ 寄宿舎
寄宿舎面積 1,391 m²
定員 24 人
在舎児童生徒数 10 人
- ⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・幼児児童生徒数



校 舎

学部	幼稚部				小学部						中学部				高等部									合 計					
															本 科			専 攻 科											
															普通科			保健理療科			保健理療科				理療科				
学年	3 歳児	4 歳児	5 歳児	重複	1	2	3	4	5	6	重複	1	2	3	重複	1	2	3	重複	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
学級数	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	13
人 数	1	0	2	1	1	0	0	0	1	0	3	3	0	0	2	1	0	0	2	1	0	0	2	0	0	0	3	0	23

- ⑧ 入学資格
 - 対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による視覚障害者
 - 通学区域 県下全域
 - ※ 幼稚部・高等部については入学者選抜実施要項に定めるものとする。

⑨ 本校の特色

- ア 視能訓練士や歩行訓練士等の外部専門家と連携し、視覚障害を補う専門教育（盲教育・弱視教育）を基礎に、一人ひとりの教育的ニーズに応じた専門的な指導を通して、確かな学力と自主性・社会性の育成に努めている。
- イ 高等部本科保健理療科及び専攻科保健理療科では、職業自立を目指して、あん摩・マッサージ・指圧師、高等部専攻科理療科では、あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゅう師の国家試験の受験資格を得ることができ、丁寧な指導のもとに国家試験合格へと導いている。
- ウ 「Eye 愛ひとみ相談支援センター」を開設し、県内視覚障害児者に対して、視覚的ケア、補助具の活用、育児相談、教材や指導法の助言、入学・進学相談、拡大教科書の紹介等のニーズに応じたサポートを行っている。
また、専門家と連携し、小・中学校在籍弱視児童生徒への支援、定期相談・臨時相談・継続相談・巡回相談等を随時実施し、地域の視覚障害教育の専門機関としてセンター的機能の充実を図っている。



授業風景（点字教科書を使用した授業：中学部）



授業風景（拡大読書器を使用した授業：理療関係学科）

(2) 山梨県立ろう学校

- ① 所在地
〒405-0016 山梨市大野 1009
TEL (0553) 22-1378
FAX (0553) 22-6419
URL <http://www.rogako.kai.ed.jp/>
E-mail rogako@kai.ed.jp
- ② 設置年月日 昭和 24 年 4 月 1 日
- ③ 交通機関 中央本線山梨市駅・春日居町駅
各下車徒歩 25 分
- ④ 校地面積 17,763 m²
- ⑤ 校舎・諸施設面積
- | | |
|--------|----------------------|
| 校舎 | 3,536 m ² |
| 体育館 | 810 m ² |
| 文化交流会館 | 500 m ² |
| 運動場 | 6,500 m ² |
- ⑥ 寄宿舎
- | | |
|---------|--------------------|
| 寄宿舎面積 | 684 m ² |
| 定員 | 20 人 |
| 在舎児童生徒数 | 10 人 |
- ⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・幼児児童生徒数



校舎

学 部	幼稚部				小学部						中学部				高等部 (普通科)				合 計		
	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	重 複	1	2	3	4	5	6	重 複	1	2	3	重 複	1	2	3		重 複	
学 年	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	重 複	1	2	3	4	5	6	重 複	1	2	3	重 複	1	2	3	重 複		
学級数	1	1	1	1	1	1	0	0	0	3	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
人 数	1	2	2	2	3	1	1	0	0	0	7	0	1	1	1	1	4	2	1	1	30

- ⑧ 入学資格
- 対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による聴覚障害者。
 - 通学区域 県下全域
 - ※幼稚部・高等部については入学者選抜実施要項に定めるものとする。

⑨ 本校の特色

- ア 個々の実態に応じた様々なコミュニケーション手段を活用し、言語力の向上と言語生活の充実をめざしている。
- イ 一人一人の学力向上を図るため、指導法の工夫・改善を進めるとともに、教材教具を創意工夫し、分かる授業をめざしている。
- ウ 乳幼児教育の充実を図り、聴覚に障害のある乳幼児への教育と保護者への支援を行っている。
- エ 本校の「きこえとことばの相談支援センター」は、県内唯一の聴覚に障害のある幼児児童生徒のための教育機関である。当機関は県内のセンター的役割を担い、支援を必要とする幼児児童生徒・保護者及び職員等への支援と、関係諸機関との連携に積極的に取り組んでいる。
- オ 学校間交流や地域の人々との交流活動では、社会的経験とふれあいを深め、良き社会人となるための素地を養っている。



授業風景（高等部の総合的な学習の時間）

(3) 山梨県立甲府支援学校

- ① 所在地
〒400-0064 甲府市下飯田二丁目 10-3
TEL (055)226-3322
FAX (055)226-3323
URL <http://www.yogoy.kai.ed.jp/>
E-mail yogoy@kai.ed.jp
- ② 設置年月日 昭和 38 年 4 月 1 日
(山梨県立養護学校として開校)
- ③ 交通機関 JR 中央線「甲府駅」より
南口バスターミナル新 1 番線
山交バスにて、長塚行・長塚経由
敷島営業所行き「長松寺」バス停下車
徒歩 8 分
- ④ 校地面積 14,059.07 m²
- ⑤ 校舎・諸施設面積
校舎 7,779.86 m²
文化交流会館 350.32 m²
駐車場 5,200.68 m²
- ⑥ 寄宿舎
寄宿舎面積 1,591.79 m²
定員 20 人
在舎児童生徒数 18 人
- ⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・幼児児童生徒数



校舎

学部	小学部								中学部					高等部(普通科)					合計
	1	2	3	4	5	6	重複	訪問	1	2	3	重複	訪問	1	2	3	重複	訪問	
学級数	0	0	0	1	0	1	11	3	1	1	7	1	0	0	0	4	2	32	
人数	0	0	0	2	0	1	31	8	2	1	19	3	0	0	0	11	5	84	

- ⑧ 入学資格
- 対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による肢体不自由者
- 通学区域 [小・中学部] 中巨摩郡、甲府市、山梨市、甲斐市、笛吹市、甲州市及び中央市
[高等部] 西八代郡、南巨摩郡、中巨摩郡、甲府市、山梨市、甲斐市、笛吹市、甲州市及び中央市
- ※ 高等部については入学者選抜実施要項に定めるものとする。

⑨ 本校の特色

- ア 児童生徒一人ひとりの個性や能力・特性に応じた指導を重視し、教材の開発、肢体不自由の改善、知的発達を促す指導の在り方、心の問題に関するケアなどにきめ細かく対応している。また、保護者・関係諸機関との連携を密に図りながら、個々のニーズに応じた教育を目指している。
- イ 児童生徒の食べる機能の発達段階に応じた 4 形態食(初期・中期・後期・普通)を調理段階から用意している。また、医療的ケアの必要な児童生徒には看護師による医療的ケアを行っている。さらに歯科医による摂食指導や学校指導医による巡回医療相談を定期的に行うなど、健康で安全な学校生活を送れるよう教育条件整備に努めている。
- ウ 全校で一斉に行う自立活動の時間を設け、児童生徒の指導を通して教師間の知識・技能を高めるとともに、PT・OT 等の専門家の活用で、より効果的な自立活動の指導を行っている。



中学部(歯科医摂食指導)

(4) 山梨県立あけぼの支援学校

① 所在地

〒407-0046 韮崎市旭町上條南割 3251-1

T E L (0551)22-6131

F A X (0551)22-6628

U R L <http://www.akebonoy.kai.ed.jp/>

E-mail ask@akebonoy.kai.ed.jp

② 設置年月日 昭和 49 年 4 月 1 日

③ 交通機関 JR 中央線「甲府駅」より

山梨交通バス御勅使行き

御勅使下車

JR 中央線「韮崎駅」より市民バス

社会福祉村行き 社会福祉村下車

④ 校地面積 16,425 m²

⑤ 校舎・諸施設面積

校 舎 3,793 m²

文化交流会館 552 m²

運動場 4,300 m²

食堂棟 287 m²

プール棟 367 m²

⑥ 寄宿舎 なし

⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・幼児児童生徒数

学部	小学部								中学部					高等部（普通科）					計
	1	2	3	4	5	6	重 複	訪 問	1	2	3	重 複	訪 問	1	2	3	重 複	訪 問	
学年																			
学級数	0	0	0	0	0	1	9	1	1	1	1	7	0	1	1	0	7	0	30
人数	0	0	0	0	0	1	26	2	2	1	2	20	0	3	1	0	19	0	77

⑧ 入学資格

○対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による肢体不自由者

○通学区域 韮崎市、南アルプス市及び北杜市。ただし、山梨県立あけぼの医療福祉センターで加療中の者にあつては県下全域

※高等部については入学者選抜実施要項に定めるものとする。

⑨ 本校の特色

ア 質の高い自立と社会参加にむけて、隣接する県立あけぼの医療福祉センターと連携し、一人一人の障害の程度、能力、特性等に応じた、きめ細かい教育実践に努めている。

イ 目的に応じて知識・スキルを使いこなす力を育成するために、個別の指導計画や個別の教育支援計画において 1 年間で達成可能な具体的な目標を設定し指導に当たっている。

ウ 児童生徒の「学習・生活上の困難の軽減」を意識して指導方法や教材・教具を工夫し、支援機器の活用に努めている。

エ 学校間や地域との交流及び共同学習等を通して、自主性・社会性・創造性を育て、お互いに学び合い、高め合える教育活動の充実に努めている。



校舎玄関



授業風景（小学部 音楽）

(5) 山梨県立わかば支援学校

① 所在地

〒400-0226 南アルプス市有野 3346-3

T E L 055-285-1750

F A X 055-285-5827

U R L <http://www.wakabay.kai.ed.jp/>

E-mail wakabas@wakabay.kai.ed.jp

② 設置年月日 昭和 49 年 4 月 1 日

③ 交通機関

JR 中央線甲府駅より山交バス「御勅使行」

「有野入口」下車 徒歩 3 分

④ 校地面積 43,069.10 m²

⑤ 校舎・諸施設面積

校 舎 8,819.39 m²

文化交流会館 500 m²

運動場 6,980.0 m²

⑥ 寄宿舎

寄宿舎面積 682.16 m²

定 員 24 人

在舎児童生徒数 32 人（うち 15 人が全泊者）



校舎全景

⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・児童生徒数

学 部	小 学 部							中 学 部				高等部（普通科）				合 計
	学 年	1	2	3	4	5	6	重 複	1	2	3	重 複	1	2	3	
学級数	1	3	1	2	1	1	4	2	2	5	5	5	4	4	9	49
人 数	6	13	4	8	6	4	12	10	12	26	13	33	31	26	25	229

⑧ 入学資格

○対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による知的障害者

○通 学 区 域 [小・中学部] 中巨摩郡、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、中央市（旧豊富村の区域を除く。）

[高 等 部] 西八代郡、南巨摩郡、中巨摩郡、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市及び中央市（旧豊富村の区域を除く。）

※高等部については入学者選抜実施要項に定めるものとする。

⑨ 本校の特色

ア 知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校で、小学部・中学部及び高等部の 3 学部を設置している。

イ 「たくましい力 ゆたかな心」を教育目標とし、卒業後、社会の一員としてそれぞれの場で安定した社会生活を営むことができる児童生徒の姿を目指している。

ウ 指導と評価の一体化を図りつつ、系統性・一貫性・発展性のある教育課程を編成し、一人一人の児童生徒のニーズに応じた教育を行うことを目指している。



授業風景（高等部：新入生歓迎会）

(6) 山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校

- ① 所在地
〒400-0601
南巨摩郡富士川町鯉沢 5673-12
TEL (0556) 27-0067
FAX (0556) 20-2007
URL <http://www.kai.ed.jp/wakafujy/>
E-mail wakafujy@kai.ed.jp



校 舎

- ② 設置年月日
平成 12 年 4 月 1 日
- ③ 交通機関
JR 東海 身延線「鯉沢口駅」よりタクシー 10 分
山梨交通バス鯉沢営業所行 鯉沢営業所下車タクシー 5 分
富士川町ホリデーバス・デマンドバス中部住宅下車徒歩 2 分
- ④ 校地面積 4,941 m²
- ⑤ 校舎・施設面積 2,176 m²
校 舎 1,551 m²
運動場 625 m²
- ⑥ 寄宿舍 なし
- ⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・児童生徒数

学部	小学部								中学部					合計
	知的障害						肢 体	重 複	知的障害			肢 体	重 複	
学年	1	2	3	4	5	6			1	2	3			1
学級数	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	9	
人数	5	1	0	0	2	1	0	1	1	2	4	0	19	

- ⑧ 入学資格
○対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による知的障害者または肢体不自由者
○通 学 区 域 西八代郡及び南巨摩郡
- ⑨ 本校の特色

ア 家庭、福祉、医療等関係機関と連携して個別の教育支援計画を作成している。個別の指導計画も職員間の情報交換を大切にしながら作成し、小規模校の利点を生かした児童生徒一人一人に目の行き届く丁寧な学習指導を行っている。全職員による多角的なアセスメントや学習支援の連携を大切にしている。

イ 学びの場が限定的にならないように、交流及び共同学習やわかば支援学校本校との合同学習を積極的に推進している。いきいき教育地域人材活用事業や文化芸術による子供の育成事業も積極的に活用している。

ウ 特別支援教育のセンター校として、地域との関係機関と繋がり、積極的な情報発信、支援連携を行っている。



文化芸術巡回公演 (H29. 11. 30)

(7) 山梨県立やまびこ支援学校

- ① 所在地
〒409-0501
大月市富浜町宮谷 1497
T E L (0554)23-1943
F A X (0554)23-1946
U R L <http://www.kai.ed.jp/yamabiky/>
E-mail yamabiky@kai.ed.jp
- ② 設置年月日
昭和 54 年 4 月 1 日
- ③ 交通機関
JR 中央線「猿橋駅」より
徒歩 40 分、タクシー10 分、
富士急路線バス宮谷行乗車、やまびこ支援学校前下車
- ④ 校地面積 23,226 m²
- ⑤ 校舎・諸施設面積
校舎 4,437 m²
文化交流会館 500 m²
運動場 2,981 m²
- ⑥ 寄宿舎
寄宿舎面積 731 m² 定員 14 人 在舎児童生徒数 5 人
- ⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・児童生徒数



学 部	小学部									中学部						高等部（普通科）						合 計
	知的障害						肢 体	重 複	訪 問	知的障害			肢 体	重 複	訪 問	知的障害			肢 体	重 複	訪 問	
学 年	1	2	3	4	5	6				1	2	3				1	2	3				1
学 級 数	1	1	1	1	1	1	0	3	0	2	1	2	0	1	0	1	2	2	1	3	0	24
人 数	2	3	2	1	3	2	0	7	0	7	4	10	0	2	0	6	13	12	1	7	0	82

⑧入学資格

- 対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による知的障害者または肢体不自由者。
- 通 学 区 域 南都留郡のうち道志村、北都留郡、都留市、大月市及び上野原市。
- ※高等部については入学者選抜実施要項に定めるものとする。

⑨ 本校の特色

- ア 知的障害者、肢体不自由者を対象とした特別支援学校である。高等部には、肢体単一の生徒も 1 名在籍している。障害や実態に応じた教育課程を編成し、幅広いニーズに対応している。
- イ 1 学期にスポーツ・フェスティバル（小中）、2 学期にやまびこまつりなどの学校行事がある他、交流及び共同学習で地域や小学校、中学校、高等学校との交流を深めている。
- ウ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成を通じて、一人ひとりのニーズに応じた授業を展開している。また、授業では、児童生徒の実態に応じた教材を使い、基礎学力の育成及び実践力や自ら学ぶ意欲を高める取り組みを重視している。
- エ 卒業後を見通し、適切な進路選択ができるように進路希望調査、産業現場等における実習、進路学習会等を実施し、進路指導の充実を図っている。
- オ 通学方法は、スクールバス 3 路線の運行、J R 中央線や路線バスを利用した自主通学、寄宿舎の利用等である。



(8) 山梨県立富士見支援学校

- ① 所在地
〒400-0027
甲府市富士見一丁目 1-1
TEL (055)252-3133
FAX (055)252-6167
URL <http://www.fujimiy.kai.ed.jp>
E-mail fujimiy@kai.ed.jp

- ② 設置年月日
昭和 59 年 4 月 1 日

- ③ 交通機関
甲府駅 4 番乗り場 山梨交通バス
中央病院経由
敷島営業所行 竜王駅行他

「県立中央病院」下車 徒歩 1 分

- ④ 校地面積 1,382 m²

(県立中央病院内 敷地内)

- ⑤ 校舎・諸施設面積 1,876 m²

- ⑥ 寄宿舍 なし

- ⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・児童生徒数

小学部、中学部が設置されている。児童生徒は、県立中央病院への入院通院に伴う転入・転出となり、在籍状況は年間を通じて流動的である。そのため、学習集団はその時々の子どもの状況に応じ構成している。

- ⑧ 入学資格

○対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による病弱者

○通学区域 県下全域（山梨県立中央病院で加療中の者に限る。）

- ⑨ 本校の特色

○治療を受けながら、小学校・中学校に準ずる教育が受けられる。

ア 教育内容は、小・中学校に準じている。

イ 病状によって、学習空白や学習進度が異なる場合も多いため、個々の状態に応じた指導を行っている。心身症等の場合、その状況に応じて教科等の設定や指導体制を工夫し、段階的な指導（初期対応・適応・通常）を行っている。

ウ 医療、学校、家庭及び前籍校が緊密な連携をとりながら指導にあたっている。

エ 病状に応じて、病棟でのベッドサイド学習を行っている。

○教育相談・訪問支援・研修支援など、県内の病弱教育に関するセンター的役割を担っている。

ア 小・中・高等学校に在籍する慢性疾患や心身症・神経症、発達障害等を抱える児童生徒の教育相談や学校への訪問支援の充実に取り組んでいる。

イ 児童生徒の病気や特性に応じた学習指導・支援の方法等について、情報提供の充実を図っている。

ウ 高校生こころのサポートルーム活用事業（山梨県教育委員会）に係る「高校生こころのサポートルーム」が設置され、高校生及び高等学校への支援、対応を行っている。



校舎



授業風景〈小学部・国語〉

(9) 山梨県立富士見支援学校旭分校

① 所在地

〒407-0046

斐崎市旭町上條南割 3314-13

T E L (0551)22-7144

F A X (0551)22-7143

U R L <http://www.fujiasay.kai.ed.jp>

E-mail fujiasay@kai.ed.jp

② 設置年月日

平成9年4月1日

③ 交通機関

JR 中央線甲府駅より山梨交通バス御勅使行

「御勅使」下車徒歩10分

JR 中央線斐崎駅より斐崎市民バス社会福祉村行

「北病院」下車

④ 校地面積 1,231 m²

⑤ 校舎・諸施設面積

校舎 1,001.5 m²

⑥ 寄宿舎 なし

⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・児童生徒数

小学部・中学部が設置されている。児童生徒は北病院への入院・通院に伴う転入・転出となり在籍状況は年間を通じて流動的である。そのため学習集団はその時々々の児童生徒の状況に応じ構成している。

⑧ 入学資格

○対象障害種 学校教育法施行令第22条の3の規定による病弱者

○通学区域 県下全域（山梨県立北病院で加療中の者に限る。）

⑨ 本校の特色

○病状に配慮しながら小学校・中学校に準ずる教育が受けられる。

ア 一人一人の実態に合わせて自立活動を中心とした初期段階、少しずつ集団や日課に慣れていく適応段階、通常の日課表に沿って主体的に活動する通常段階と段階ごとに指導している。

イ 学習空白など児童生徒の実態に合わせて基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。

ウ 前籍校復帰を目指し、医療、前籍校と連携をとりながら支援を行っている。

○安心・快適な学習・生活環境に配慮されている。

ア 学校は自然豊かな環境の中にあり、四季を感じられる屋外での体験活動を計画的に行っている。

イ 校舎の中央には吹き抜けのホールがあり、児童生徒が集まり自然に交流ができる構造である。

○センター的機能の充実を図っている。

ア 小学校・中学校・高等学校に在籍する心身症等心性疾患の児童生徒の教育相談を行っている。

イ 小学校・中学校・高等学校への訪問支援、研修支援、情報提供を行っている。



校舎



授業風景（ふれあい活動：ドミノ倒し）

(10) 山梨県立ふじざくら支援学校

① 所在地

〒401-0301

南都留郡富士河口湖町船津 6663-1

TEL (0555) 72-5161

FAX (0555) 72-5164

URL <http://www.fujizaky.kai.ed.jp>

E-mail fujizaky@kai.ed.jp

② 設置年月日 平成8年4月1日

③ 交通機関 富士急行河口湖駅下車 山梨赤十字病院行きバス終点より 徒歩5分

④ 校地面積 23,158㎡ (学校管理面積)

⑤ 校舎・諸施設面積

校舎 5,862㎡

体育館 839㎡

運動場 4,799㎡

⑥ 寄宿舎 なし

⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・児童生徒数

学部 障害別	小学部								中学部					高等部 (普通科)					合計
	知的障害						肢体 重複	知的障害	肢体 重複	知的障害	肢体 重複	知的障害	肢体 重複						
	1	2	3	4	5	6								1	2	3	1	2	
学年	1	1	1	1	1	1	0	4	1	2	2	0	3	2	2	2	1	4	29
学級数	1	1	1	1	1	1	0	4	1	2	2	0	3	2	2	2	1	4	109
人数	3	1	5	6	1	3	0	10	5	8	7	0	7	13	14	15	1	10	109

⑧ 入学資格

○ 対象障害種 学校教育法施行令第22条の3の規定による知的障害者または肢体不自由者

○ 通学区域 南都留郡 (道志村を除く) 及び富士吉田市

※ 高等部については入学者選抜実施要項に定めるものとする。

⑨ 本校の特色

ア 富士北麓・東部地域の知的障害児、肢体不自由児及び重複障害児を対象として平成8年度に「富士ふれあいの村」の一角に開設された総合的な特別支援学校である。

イ 小学部から高等部までの多様な障害のある児童生徒が在籍しているため、3つの教育課程を編成し、個に応じたきめ細かな教育を行っている。医療的ケアの対象となる児童生徒も在籍する。

ウ 周囲を緑に囲まれた恵まれた自然環境の中にある。地域との交流を重視しながら、開かれた学校づくりを行っている。

エ 地域の特別支援教育のセンター的役割を担い、教育相談や訪問支援、研修支援、専門図書の貸し出しなどを実施し、地域の幼児児童生徒、保護者、教員等に必要な支援を行っている。



校舎



授業風景 (中学部: 作業学習)
<いきいき人材活用事業の授業>

(11) 山梨県立かえで支援学校

- ① 所在地
〒400-0807
甲府市東光寺二丁目 25 番地 1 号
T E L (055)223-6355
F A X (055)223-6356
U R L <http://www.kaedey.kai.ed.jp/>
E-mail kaedey@kai.ed.jp
- ② 設置年月日 平成 13 年 4 月 1 日
- ③ 交通機関 学校までの交通手段
JR 中央線「酒折駅」から徒歩 20 分
JR 身延線「善光寺駅」から徒歩 10 分
山交バス「甲府市障害者センター」バス停から
徒歩 10 分
- ④ 校地面積 23,957 m²
- ⑤ 校舎・諸施設面積 校舎 6,104 m² 体育館及び交流ホール 1,098 m²
運動場 4,000 m² プール 556 m² 農園 400 m²
- ⑥ 寄 宿 舎 なし
- ⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・児童生徒数



校 舎

学 部	小学部							中学部				高等部（普通科）				計
	1	2	3	4	5	6	重複	1	2	3	重複	1	2	3	重複	
学 年	3	2	3	3	3	1	3	2	3	4	1	4	4	4	5	45
学級数	13	8	14	13	13	5	8	12	14	21	3	25	28	26	13	216
人 数																

- ⑧ 入学資格
○対象障害種 学校教育法施行令第 22 条の 3 の規定による知的障害者
○通 学 区 域 甲府市、山梨市、笛吹市、甲州市及び中央市(旧豊富村の区域に限る。)
※高等部については入学者選抜実施要項に定めるものとする。

- ⑨ 本校の特色
- ア 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成に努めている。特に高等部では、卒業後の進路も見据えた教育実践に取り組んでいる。
- イ 地域の方々との温かな人間関係を重視した交流及び共同学習の推進に努め、特別支援教育に対する理解推進のために「地域に開かれた学校」を目指している。
- ウ 地域の特別支援教育のセンター校として、本校のリソースを活用した教育相談・訪問支援オープンスクール(学校見学会)・授業体験会などを実施し、地域の幼児児童生徒・保護者・教師等の教育的ニーズに応じている。



部活動の風景（太鼓部）

(12) 山梨県立高等支援学校桃花台学園

- ① 所在地
〒406-0026
笛吹市石和町中川 1400 番地
TEL (055)263-7760
FAX (055)263-0741
URL <http://www.toukadai.kai.ed.jp>
E-mail toukadai@kai.ed.jp
- ② 設置年月日 平成 27 年 4 月 1 日
- ③ 交通機関 学校までの交通手段
JR 中央線「石和温泉駅」からタクシー15分
富士急バス「山梨県立博物館」バス停から徒歩 25 分



④ 校地面積 41,226.49 m²

⑤ 校舎・諸施設面積

校舎 8,121.49 m²
運動場 17,404 m²
体育館 748.84 m²
圃場 2,849 m²

⑥ 寄宿舎

寄宿舎面積 555.34 m²
定員 16 人
在舎生徒数 15 人

⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・幼児児童生徒数

学 部	高等部（産業技術科）			合 計
	1	2	3	
学 年	1	2	3	
学級数	5	5	5	15
人 数	38	37	34	109

⑧ 入学資格

- ・知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部若しくは中学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者又は平成31年3月卒業見込みの者
- ・高等支援学校桃花台学園校長が、中学校を卒業した者と同等の学力があると認めた者
- ・知的障害の程度が比較的軽い者で、施行令第22条の3に規定する知的障害者以外の障害を併せ有していない者
- ・基本的生活習慣を身につけており、自主通学のできる者

○通学区域 山梨県内全域

⑨ 本校の特色

- ア 県内初、高等部のみ軽度の知的障害者を対象とした特別支援学校として平成27年4月に開校した。
- イ 自主通学を基本とし、遠方からの通学で時間のかかる生徒の通学保障として、寄宿舎を設置している。
- ウ 専門学科「産業技術科」を設置し、特別支援学校高等部学習指導要領に示す専門教科「家政」、「農業」、「流通・サービス」の各教科を設置し、専門教科の各分野の学習をとおして、職業教育の充実を図っている。また、職業教育に係る外部専門家を講師として活用し、より専門的な内容の学習を行っている。
- エ 職業教育に重点をおき、卒業後は企業等への就労を目指している。日々の学習や進路先見学、就業体験、産業現場等における実習（現場実習）等をとおして、生徒一人一人に合った進路選択ができるような指導・支援を行っている。



(13) 山梨大学教育学部附属特別支援学校



① 所在地 校 舎

〒400-0006

甲府市天神町 17-35

T E L (055)220-8282・8284

F A X (055)220-8322

U R L <http://www.futoku.yamanashi.ac.jp>

E-mail fuyok@yamanashi.ac.jp

② 設置年月日 昭和 48 年 4 月 1 日

③ 交通機関 JR 中央線「甲府駅北口」より徒歩 20 分
山梨交通バス 武田神社行き または積翠寺行き乗車
山梨大学前下車徒歩 3 分

④ 校地面積 14,403 m²

⑤ 校舎・諸施設面積

校 舎 3,017 m²

生活訓練施設 473 m²

運 動 場 3,255 m²

学校農園 735 m²

⑥ 寄宿舎 なし

⑦ 設置学部・学科・学年・学級数・幼児児童生徒数

学 部	小学部						中学部			高等部 (普通科)			合 計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	
学級数	1		1		1		1	1	1	1	1	1	9
人 数	4	2	2	3	2	1	4	3	7	8	7	8	51

⑧ 入学資格

- ・学校教育法施行令第 22 条の 3 に規定する知的障害者（医師の診断書を提出できる者）
- ・学校生活において医療的ケアが必要でない者
- ・進行性疾患のない者
- ・原則、保護者同伴又は自主通学が可能な者で、原則として通学時間が片道 1 時間以内の者

⑨ 本校の特色

ア 少人数の利点を生かし、落ち着いた環境で学習を展開している。また、小学部・中学部・高等部の連携を踏まえた上で、個々のニーズに応じた教育を目指している。

イ 隣接する山梨大学教育学部と連携し、最先端の知見を活用したよりよい教育を目指している。

ウ 甲府駅から近く、様々な地域から公共交通機関を用いた通学が可能である。将来の自立に向けた自主通学が計画しやすい立地条件である。

エ 附属学校として取り組む教育実践及び研究を通して、県内外の特別支援学校や小中学校を対象とした、特別支援教育の推進に取り組んでいる。



高等部授業風景(音楽:和太鼓)